

予報期間 2月5日から2月11日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 7日は、発達した低気圧が千島の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。日本の南を前線を伴った低気圧が東進する。
- 8日は、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。
- 9日は、高気圧が東シナ海から西日本付近へ移動して、冬型の気圧配置は西から緩む。
- 10日は、高気圧が日本の東へ移動する。
- 11日は、気圧の谷が日本付近へ進む。

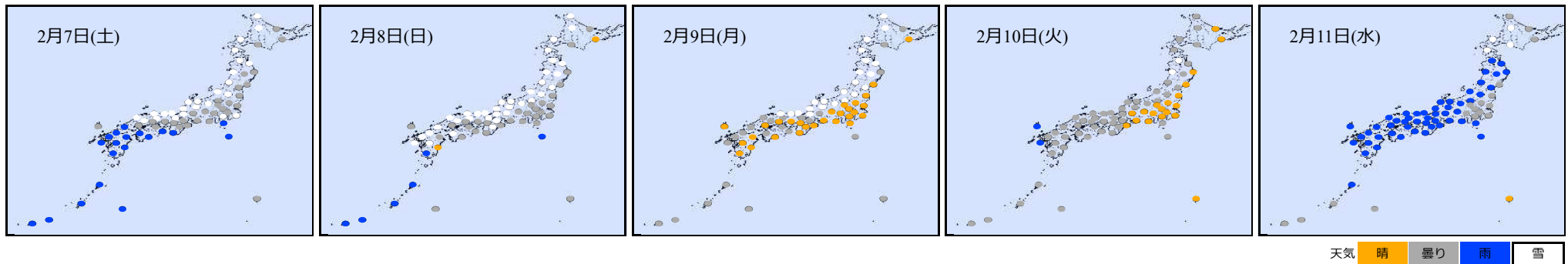
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 7日頃にかけては、発達する低気圧の影響で北日本では大荒れとなるおそれがあり、低気圧の発達程度等によっては大しけとなる可能性がある。
- 8日頃は、強い寒気の影響で北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となり、寒気程度によっては警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

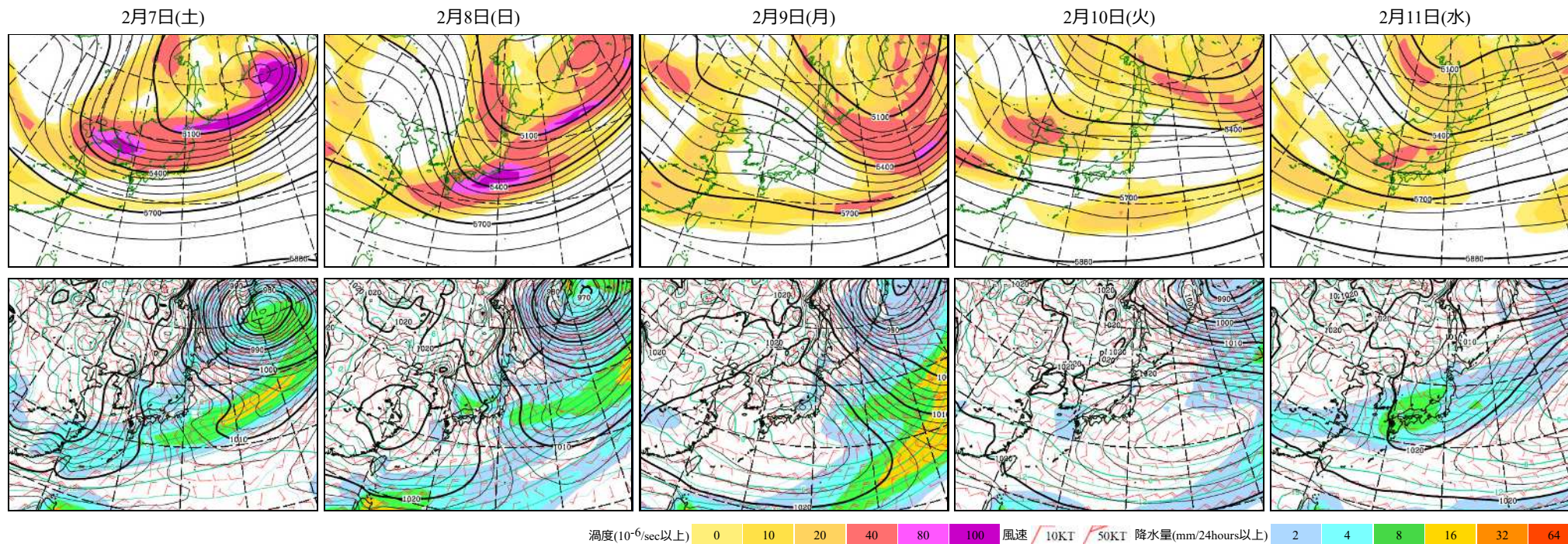
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

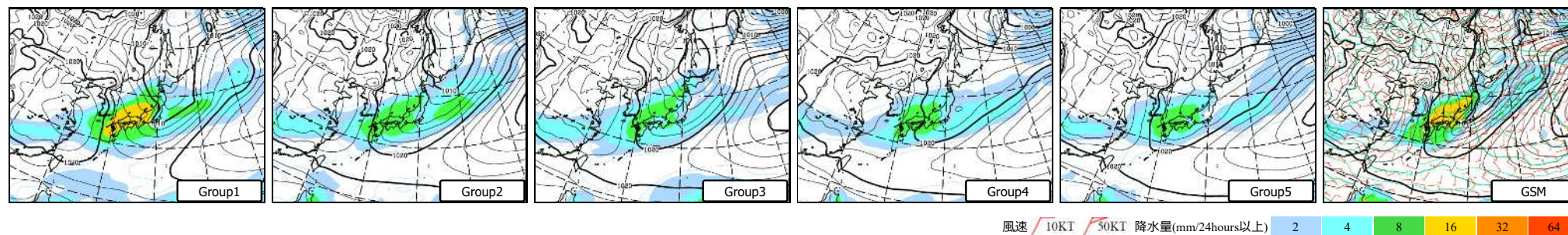


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多いが、7日から8日は雨または雪の降る所があり、11日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、7日から8日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、9日は日本付近へ進むリッジが早まり、日本海側の降水が弱まったことに対応して、日本海側の降水確率がやや小さくなった。
- 各モデルとも、寒気のピークは8日で9日以降は寒気が弱まる予想はおおむね揃っている。また、11日に日本付近へ進む低気圧は、GSMは低気圧が日本海から北日本付近へ進み、前線が西・東日本付近を東進する予想。一方、海外モデルの一部は低気圧の東進が遅く、西日本付近に予想しているが、日本付近に広く降水を予想している点についてはモデル間の差は小さい。
- スプレッドは、期間の中頃にかけては小さいが、期間の終わりはやや大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。